

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] フロリダにおけるサトウキビのネコブセンチュウ防除

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東, 清二 (抄録) , Azuma, Seizi メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015212 |

フロリダにおけるサトウキビのネコブセンチュウ防除

(WINCHESTER, J. A. : Sugar Journal 22-23. 1666)

フロリダにおいては25年来サトウキビの生産が急速に増加しつつあるが、その中で生育悪く、収量の低いところがあり、その圃場から採集した土壤には多数のネコブセンチュウの生息することがわかっている。今回株出しサトウキビ園における殺線虫剤の効果について試験を行なったのでその成績を報告する。

試験はサトウキビ（品種C l .41—223）収穫2週間後に、*Meloidogyne incognita acriata* サツマイモノコブセンチュウの個体数の多い2つの土壤（Peaty muck Soil, Sandy muck Soil）で実施した。殺線虫剤はエチレンダイブロマイド（エーカー当たり6ガロン区と12ガロン区）、ジクロロプロパン（25ガロン区と37ガロン区）、および B—25141（8ポンド区と16ポンド区）を用い、前二者は株より5インチ離して8インチ毎に6インチの深さに灌注し、後者は2ガロンの水と共に

に株にかけ、さらに薬剤を土壤に浸透させるために等量の水を灌水した。

処理6, 12, 24, 36週間後にサトウキビの成長率、茎長、線虫の個体数について調査した。線虫の個体数はキウリを示標植物として調査したところ次のとおりであった。

いずれの薬剤処理区も無処理区に比し、成長割合が増加し、線虫の個体数が少なかった。ジクロロプロパンおよびエチレンダイブロマイド処理区では茎長、成長量が増加し、B—25141処理区は多くの点で線虫防除剤としてもっともすぐれていた。

また試験結果から薬量はジクロロプロパンがエーカー当たり25ガロン、B—25141は8ポンド、エチレンダイブロマイドは6ガロンの処理が良好であった。

(抄録 東 清二)